

それは sweet fennel の葉身でのみ検出されただけで, bitter fennel では検出されなかった。又, t-anethol は地上部において主要な精油成分であった。一方, 組織学的観察から, 器官によって分泌管の構造や大きさ, 数が異なっていた。

○高等植物分布資料 (129) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (129)

○マヤラン *Cymbidium nipponicum* (Franch. et Savat.) Makino 1989年7月18日,

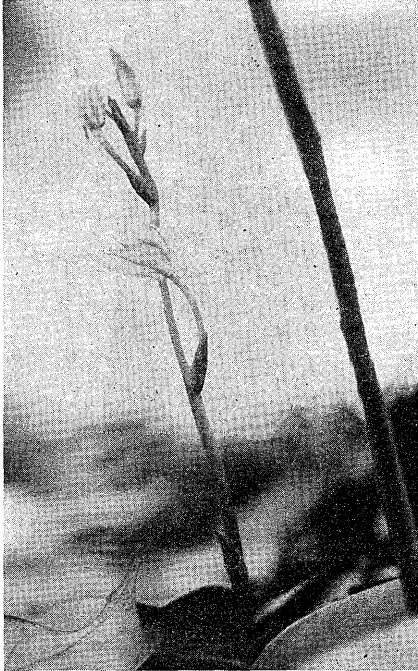


図 1. マヤラン *Cymbidium nipponicum*.

東京都文京区の東京大学構内のスダジイ樹下で, つぼみの状態の花茎を発見した。他に付近には花茎は見当たらず, 枯れた茎も見当たらなかったので, 本年がこの個体の最初の開花年に当たるものと推定された。その後観察を続けたところ, 7月24日になって開花を見, 本種であることを確認した (図1)。つぼみの時点では, 花茎にはつぼみを含めて葉緑素によると思われるような着色は認められず, 全体に赤褐色と紫褐色を帯びていたが, 白地に紫紅色の条線の入った花を咲かせた後, 子房部位を中心に淡緑色の着色が認められるようになり, 子房が肥大するとともに花茎もアントシアン性の紫色の着色を失い緑色を呈するようになっている。なお, 一花は人工授粉を行なって結実を見たが, 他の放置した花も結実を見た。以上は塚谷の観察によることが多い。

本種は腐生性のため, 個体数が少なく, また地上部が花茎のみであるため発見されることも稀である。分布は関東南部以西とされているが, そうした事情から, 東京の市街地の中での自生例は稀なことと思われる。花茎の標本は東京大学総合研究資料館におさめた。

(東京大学 遺伝子実験施設 塚谷裕一

Hirokazu TSUKAYA・東京都文京区 [redacted] 津山 尚 Takasi TUYAMA)